

## 伊豆大島土砂災害対策検討委員会 設置趣意書

平成25年10月15日から16日にかけての台風26号の通過により、伊豆大島は未曾有の豪雨に見舞われた。

元町地区上流域の大金沢を中心とした溪流において、流木を伴った土砂流出が発生するなど甚大な土砂災害が生じた結果、多くの人命が失われ、11月5日には、大島を局地激甚災害指定することが閣議決定している。

このため、東京都では、さらなる土砂災害を防ぐため緊急工事を実施しているところであるが、崩壊した斜面や溪流には依然として多くの不安定土砂が残存しており、崩壊地のさらなる拡大や不安定土砂の流出の可能性が残されている。また、伊豆大島では火山活動が継続しており、再噴火した場合には、溶岩流の流出や降灰に伴う泥流の発生が心配されることから、これまで総合溶岩流対策を実施してきた。

したがって、今後も土砂流出が発生する恐れのある大金沢を中心とした大島の早急な安全確保に向け、想定される噴火による災害も見据えた土砂災害対策計画を検討する必要がある。

については、元町地区の復興等も視野に入れ、砂防や火山の専門家や関係行政の意見を広く聴取するなど総合的に検討を進める必要があることから、標記委員会を設置するものである。